TOTO

シングルレバー混合栓

製品の機能が十分発揮されるように、

完成図

TKF31UF型，TKJ31UF型，TKJ31UFG型

	型	
A寸法	TKF31UF型	177
	TKJ31UF型	177
	TKJ31UFG型	183
B寸法	TKF31UF型	260
	TKJ31UF型	240
	TKJ31UFG型	
C寸法	TKF31UF型	5°
	TKJ31UF型	10°
	TKJ31UFG型	

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1．使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組合わせる場合

給水圧力｛最低必要水圧……(表参照)
最高水圧…………0.74MPa{7.5kgf/㎠}

〈設定条件〉
- レバーハンドルは全開
- 吐水温度：38℃
- 給湯配管長さ：5m
- 給湯機が着火する下限の圧力とする
- 水温の高い（25℃）夏期に着火させることを想定
- 能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定
- 比例制御タイプの出湯温度：60℃

※能力手動切替タイプで、水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

器具入口部における最低必要水圧（MPa {kgf/㎠}）

給湯機タイプと号数			最低必要水圧
能力手動切替タイプ		12号	A+0.4{4.0}
比例制御タイプ	TOTO カスタム制御方式	10号	0.08{0.8}
		16号	
		20号	
	TOTO トリコン制御方式（トリコン・コンタクト・アクティ）	16号	0.06{0.6}
		20号	
		24号	
		アクティ	0.05{0.5}
		スーパーアクティ	
		32号	0.06{0.6}
	TOTO ハイトリコン制御方式	21号	0.05{0.5}
		24号	
	TOTO コマンド	16号	0.06{0.6}
		24号	
	TOTO ハイコマンド	21号	0.05{0.5}
		24号	

注）表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。
（比例制御タイプにはこの数値が含まれています。）

(2)貯湯式温水器と組合わせる場合

給水・給湯圧力｛最低必要圧力…0.05MPa{0.5kgf/㎠}
最高圧力………0.74MPa{7.5kgf/㎠}

(3)給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

2．給湯に蒸気を使用しないでください。

3．湯・水を逆配管しないでください。
給水ホースには©ラベルを、給湯ホースには⊕ラベルを張付けています。
なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

4．水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。

器具の取付け

1．給水管内の清掃
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

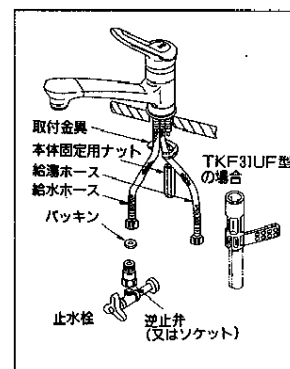
2．混合栓本体の取付け

(1)混合栓本体をカウンターへ取付ける際、給水・給湯ホースの袋ナットを同じ位置にして、カウンターの穴へ差し込もうとすると、袋ナットが穴に当たり、入りませんので、ホースの袋ナットの位置を右図のように、上下に少しずらして差し込んでください。

(注)この時、ホースを必要以上の力で曲げて折らないよう、注意してください。
万一折れた場合は、指でつまんで元どおりにしてください。

(2)混合栓本体が正面を向くように仮固定したのち、逆止弁（寒冷地用の場合はソケット）を止水栓に本固定し、給水・給湯ホースを逆止弁に接続してください。

(3)最後に、混合栓本体を、本固定してください。固定には、同梱の締付工具（TKF31UF型の場合）又は、別売のナット締付専用工具（TZ40L）を利用して本体固定用ナットを、確実に締めてください。

(注)給水・給湯ホースのゆるみ防止のため給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

※混合栓本体を固定する際、本体下のパッキンの取付位置をまちがわないように注意してください。
※水栓を固定する際、取付穴が水栓本体の中心にくるように取付けてください。

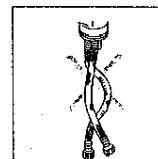
3．給水・給湯ホースの施工上の注意点

(1)給水・給湯ホースを逆に使用しないでください。各専用ホースとなっていますので、逆接続すると給水ホースより黒い粉が吐出することがあります。

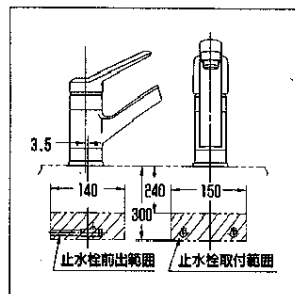
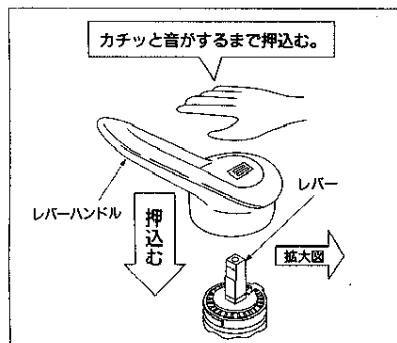
(2)ホースがねじれないように配管ください。
ホースがねじれて配管されますと、加圧した際ホースを取付けたナットのゆるみの原因となります。

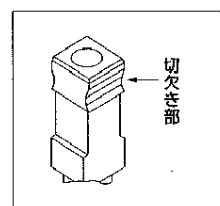
(3)ホースの折れに、ご注意ください。
ホースを最小曲げ半径（60mm）よりも小さく曲げて使用しますと、ホースが折れることがあり、折れた部分で早期破壊を生じる可能性があります。
施工時には、最小曲げ半径（60mm）よりも小さく曲げないように、ご注意ください。

(4)金具本体端面から極端に屈曲して、施工しないでください。

(5)ホース同士の不要な接触は避けてください。
外部補強層の磨耗による外傷でホース性能の劣化の可能性がありますので避けてください。

施工説明書

この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。

4. 給水・給湯ホースの施工について
　このホースの施工については、右図に示す範囲内の止水栓位置にて、施工が可能です。

レバーハンドルの取付要領

このレバーハンドルは、ワンタッチで取付けることができます。

ご注意

レバーハンドルとレバーの切欠きとの方向性に注意してください。
正面からみてレバーの切欠きは、両サイドにあります。

万一方向をまちがえて取付けた時は、レバーハンドルを一度引抜いて方向を合わせて再度押込んでください。
最後に、レバーハンドルが容易に抜けないことを点検してください。

使用上の注意

この商品は、ウォーターハンマー低減機構を採用しております。
レバーハンドルを速く操作しようとすると、抵抗感が発生し重く感じることがありますが故障ではありません。
レバーハンドルがロックして、水が止まらなくなった場合は、一度全開にして、再度ゆっくり閉めてください。

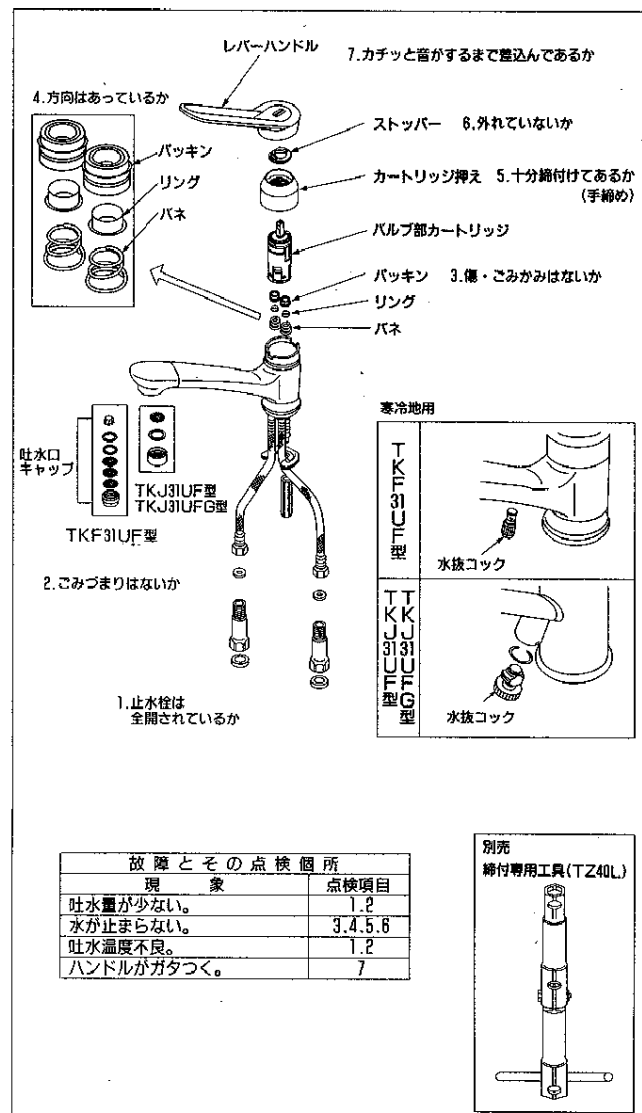
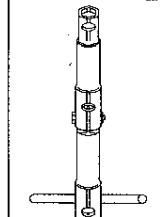
寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は、器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜方法をご指導ください。
〈水抜手順〉
(1)レバーハンドルを中央位置（湯側・水側の中間）で上げてください。
(2)水抜コックを開いてください。
(3)水抜き後は、必ず水抜きコックを強く締めてください。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。
1. ふだんは柔らかい布でふき、ときどきミシン油やカーワックスなどをしみこませた布でふいてください。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意してください。
2. 汚れがひどいときには、適量にうすめた食器用中性洗剤でふきとった後、水洗いしてください。
3. クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないでください。
4. 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないでください。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合には、すぐにタイル及び器具を十分水洗いしてください。

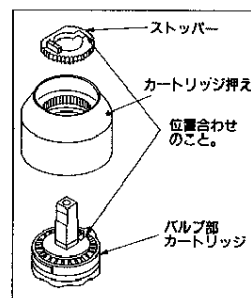
分解と点検

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

故障とその点検個所	
現　象	点検項目
吐水量が少ない。	1.2
水が止まらない。	3.4.5.6
吐水温度不良。	1.2
ハンドルがガタつく。	7

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

ご注意

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

点検時の注意

カートリッジ押えは、手締めにて締め付け、工具は使用しないでください。
再セットされる際に、ストッパーを組込む時は、カートリッジ側凸部とストッパー側凹部を合わせて押込んでください。
その際カートリッジ押えの内側の歯とストッパーの外側の歯が合わない時は、カートリッジ押えを締め込む方向にて歯を合わせるように調整してください。

工具について

施工時に、締付工具（TZ40L）がない場合、下記の一般工具でも取付けは可能です。
(1)ソケットレンチ（対辺13mm用）
(2)T型レンチ（同上）
(3)ナットスピンナーハンドル（同上）

再生紙を使用しています。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。